

第 1 2 期第 4 回 府中市美術館運営協議会 次第

令和 6 年 1 1 月 2 4 日（日）

府中市美術館 会議室

1 開会

2 府中市美術館運営協議会会長挨拶

3 府中市美術館館長挨拶

4 議題

（１）諮問事項「府中市美術館の利用拡大について 事業・施設のあり方」の
答申書案について

（２）その他

5 閉会

[配布資料等]

資料 1 府中市美術館 運営協議会 答申書（案）

資料 2 第 1 回～第 3 回 府中市美術館運営協議会 意見抽出

府中市美術館 運営協議会 答申書

府中市美術館の利用拡大について ～事業・施設のあり方～

(案)

令和6年●●月

府中市美術館運営協議会

【はじめに】

府中市美術館運営協議会は、美術館の運営や事業に携わってきた者、美術史の研究者、美術作家、府中市の学校教育・家庭教育・地域活動の代表、そして市民からの公募委員という、計12名によって構成される。各委員にはそれぞれの経験や知見を活かしつつ、美術館に対する全国的な視座と、府中市の地域特性に寄り添った視点の双方から、府中市美術館の運営について提言することが期待されている。

本協議会は、令和4（2022）年12月から令和6（2024）年11月までの2年間にわたって、諮問事項「府中市美術館の利用拡大」について、計4回の会議を重ねてきた。この諮問事項を、単に入館者増を図るという数値的観点ではなく、府中市美術館により一層親しんでもらうという質的観点で捉え、事業の充実・施設の整備・広報の拡充などについて議論を深めた。

【これまでの府中市美術館】

府中市美術館の活動はこれまで、高い水準を維持しながら一層の拡充を遂げてきた。

作品収集活動では、「府中および多摩地域の美術」「近代以降の洋画」「現代の美術」という収集方針に従い、着実にコレクションを形成してきた。とりわけ、新規作品取得のために府中市美術品購入基金が設けられたことは、高く評価できる。

展示活動では、人気の高い作家・作品を紹介する企画や子どもたちを対象とした普及的内容の企画など市民ニーズを反映した展覧会と、新たな視点から美術史を読み直す企画や地域の作家を掘り起こす企画などこの美術館の個性を生かした展覧会とを、バランスよく実施している。簡潔で読みやすい解説パネル、鑑賞者に親しみを持たせる演出、企画展のなかで収蔵作品を有効に活用した出品構成など、展示上の工夫についても評価すべき点が多い。

教育普及活動では、小中学校美術鑑賞教室や府中っ子学びのパスポートといった子どもたちを対象とした取り組みをはじめ、アートスタジオ、公開制作、学校など他機関と連携した事業と、バリエーション豊かに展開してきた。

さらに、カフェ・ショップ・市民ギャラリーといった付帯設備についても充実しており、市民をはじめとする多くの方々が利用している。

こうした施設が府中市にあることを、さらに多くの人々に知ってもらい、より活用してもらうことが重要である。

【これからの府中市美術館】

このように府中市美術館は、現状でも充実した活動を展開している。そのうえで、近年の社会状況や府中市の地域特性を踏まえ、いくつかの提言を行う。

多様な利用者への対応

美術館という鑑賞環境は、不特定多数が時間を選ばずひとつの空間に集まるものであり、通常は大人の健常者を対象に展示が設計されている。しかしそれは、年少者やハンディキャップのある方には不便さを感じさせるであろうし、作品を前にした自由な対話も忌避されがちだ。これら多様な要望を持つ利用者に対して、その属性やニーズにあわせた鑑賞環境を整えることが求められていく。例えば、子どもだけが鑑賞可能な曜日・時間帯を設けるといった工夫も、今後は考えられるのではないだろうか。

またこれまで美術館は、「美術館に来る人」を対象に事業を展開してきた。しかし、高齢者や遠隔地居住者、ハンディキャップのある方や不登校児童生徒など、美術館に来る上で何らかの負担を持つ人々も存在する。さらには、美術や美術館に興味が無い人々もいる。「美術館に来ることができない人」のニーズに答えていくこと、そして「美術館に来ない人」に対してプレゼンテーションしていくことが、今後の美術館利用の拡大に繋がっていく。

オンラインの活用

ホームページやSNSなどのオンライン技術は、これまでも広報メディアとして活用されてきた。しかしコロナ禍で外出が制限されるなか、動画による作品解説、双方向通信による講座、静止画や動画による展示状況の公開など、オンラインを活用したさまざまな美術館活動が実践された。また学校教育の場ではタブレットが導入され、デジタル教材は必須のものとなっている。

オンラインを活用しさまざまな事業を展開することは、これからの美術館活動に不可欠な要素となっていく。さらに、先に挙げた「美術館に来ることができない人」にサービスを提供し、「美術館に来ない人」にアピールする面でも、有効な手法といえる。

地域への働きかけ

市の施設である府中市美術館では、地元市民の支援や利用は欠かせない要素である。しかし開館24年を迎えた今なお、美術館を利用しない市民や存在を意識していない市民は存在する。こうした人々に対しては、今後も継続して美術館を周知して行かなければならない。

そのためには、口コミ、回覧板、掲示板など生活圏に密着したメディアによる広報は大きな効果をもたらすと思われる。また、地域のイベントや施設、学校などに赴いて事業を展開するアウトリーチ活動も、美術館への認知度を高めるとともに、新たな利用者層と活動を開拓する面で、大きな効果をもたらすであろう。

主体的で能動的な利用

美術館利用というと、展覧会や教育普及事業など施設側が提供するプログラムに参加するという受動的なものが一般的である。しかしこれからは、より能動的な利用形

態も考えていく必要がある。

府中市美術館でもボランティアを導入しているが、コロナ禍でその活動は縮小された。状況が落ち着いた現在では、ボランティア活動の活性化が可能だし、その際には参加者が主体的に参画でき充足感を得られる事業を目指すのが望ましい。

公開制作は、現役の美術作家が美術館で作品を制作しそれを公開する、府中市美術館ならではの事業である。鑑賞者にとっては新鮮な体験であるが、同時に作家にとっても刺激的な機会である。このような作家がより能動的に関わるプログラムを増やしていくことも、美術館の事業を拡充し存在意義を高めることに繋がっていく。

将来目標の設定

府中市美術館が一層の発展を遂げるためには、確固たる将来目標を打ち出すことが重要である。

例えば、作品収集では100年後に残るコレクションを形成するといった目標を設定することで収蔵作品の質的な充実が図れるであろうし、展示や教育普及では地域の未来を育むといった目標を立てることでそれに即した事業を長期的・継続的に展開することができるであろう。

さらに、こうした将来像を実現していくためには、施設の整備を適時に行っていくとともに、必要となる設備の拡充も図っていく必要がある。

令和6年●●月

府中市美術館運営協議会

会 長	橋 本 善 八
副会長	隠 岐 由紀子
委 員	芹 澤 敏 光
委 員	高 橋 伸 嘉
委 員	岡 村 幸 宣
委 員	真 住 貴 子
委 員	水 橋 佳也子
委 員	加賀美 敦 子
委 員	金 田 実 生
委 員	吉 田 裕 子
委 員	瑞慶覧 香 織
委 員	森 下 英 美

- ・第1回運営協議会 令和5（2023）年2月5日（日）
- ・第2回運営協議会 令和5（2023）年7月30日（月）
- ・第3回運営協議会 令和6（2024）年2月10日（土）

① 【今回の答申について】

- ・「利用拡大」とは、単に入館者増ではなく、府中市美術館のことを知ってもらい、親しみを持ってもらうにはどうすればいいかということ。【第1回】
- ・事業の拡充や充実、施設の整備、広報など、幅広い視点を含む。【第1回】
- ・今回の諮問には美術館の設備についても意見を求められている。老朽化、改修、利用者対応という視点でも議論を深めたい。【第2回】
- ・今回の利用拡大という諮問は、数ではなく質で考えていくべき。【第2回】

② 【これまでの府中市美術館】

全般的イメージ

- ・いろいろな立場の方がアートを見にくるなかで、府中市美術館では本物のアートを提示し続ける活動が、どんどん充実してきている。【第1回】
- ・こんな素晴らしい施設が府中市にあるのなら、たくさんの人に知ってほしい。【第1回】
- ・企画展、市民ギャラリー、カフェと、市民がいっぱい利用していて、地元に着した雰囲気が出ていると、感じている。【第1回】
- ・感受性を開発する場、感受性を触発される場は、人間にとって重要であり、美術館はそういう場所。府中市が美術館を持っていることは、住環境として素晴らしいし、皆さんで盛り上げていけたら嬉しい。【第1回】

作品収集活動

- ・作品購入のための基金があることは、府中市の文化への取り組みとして立派。【第2回】

展覧会活動

- ・府中市美術館の解説パネルは、すごくわかりやすく書いてある。それは、美術を頭で解釈するのではなく、目と心で見るようにうまく誘導しているということ。その点に気を

やりながら、話を進めていきたい。【第1回】

- ・展覧会活動では、所蔵品を活用しながら、バランスの取れた活動をしている。【第2回】
- ・従来の美術史からは評価されない作家を取り上げた企画展は、立派な活動。【第2回】
- ・府中に関係のある作家や作品の展覧会は、府中市民にとって説得力がある。【第2回】
- ・「ぱれたん」など子ども対象の展覧会や江戸絵画展のような毎年行う企画があり、その一方で新しいジャンルの開拓もしていければ、いいかと思う。【第2回】

教育普及活動

- ・小中学生を対象とした美術鑑賞教室も、美術館へ行ったという経験は重要で、それを継続しているのはすごいこと。【第2回】
- ・小中学生の無料パス「府中っ子学びパスポート」は、非常にありがたい。【第2回】
- ・府中っ子学びのパスポート、美術鑑賞教室、図工美術の教員の研究組織との連携など、学校を対象とした事業も充実している。【第2回】

広報活動

- ・学校でもポスター掲示やチラシ配布などの取り組みをしている。【第2回】
- ・美術館から学校に向けての広報活動は、盛んにやってもらっている。【第2回】

設備・サービス

- ・カフェは、メニューも楽しく居心地もいい。【第1回】
- ・市民ギャラリーも、多くの方が利用しているのはすごい。【第2回】
- ・市民ギャラリーで毎年開催している連合図工展など、学校活動に会場を提供していることはありがたい。特に、毎年開催しているという継続性が、重要だと思う。【第3回】
- ・「ぱれたん」は、府中市美術館のキャラクターとしてすごく定着している。【第2回】

その他

- ・学芸員の採用や後継者の育成の面でも、将来を見据えているという印象を得た。【第2回】。

③ 【美術館に期待するもの・美術館の意義】

- ・美術館で、ただ作品を見て素晴らしいと思うだけでなく、精神的な繋がりとか日本的な価値観とかを伝えていくこともできる。【第1回】
- ・美術館に興味がない人もいるなか、どうすれば社会の中に美術館があって良かったと思ってもらえるのか、考えていきたい。【第1回】
- ・フランスなどに比べ、日本では作家への支援が弱い。制作する意欲のある人は日本にもたくさんいるので、その助けとなるような意見が出せればと思う。【第1回】

- ・小学生のころに、美術館の市民ギャラリーに作品が展示されたことが、今でも作品を制作していることに繋がっている。【第1回】
- ・子どものころに美術館にきた子たちが、大学生になって博物館実習できたり、就職して仕事関係で関わったり、美術館との関係が将来に続くことがある。【第2回】
- ・子どものときに美術館に触れるのはすごく大事なこと。【第2回】
- ・将来的に人口が減少し社会構造が変化していくなか、若い人を学校とか会社といった組織の中だけで育てるのではなく、社会全体でどう育てていくのかという視点が必要になる。社会教育施設である美術館は、それを担っていくことになるのではないか。【第2回】

④【府中市美術館の将来像や改善点】

作品収集活動

- ・100年後も愛される作品コレクションの形成を目指してもらいたい。【第1回】
- ・長期的な目標を立てることで、継続的な収集を行うとともに、予算的な持続性を確保し、市民の精神的財産を積み上げていってほしい。【第3回】

展覧会活動

- ・子どもが楽しめるというだけではなく、親も楽しめる・親が楽しめるという企画があれば、親が子どもを積極的に美術館に連れて行くようになるのではないか。【第2回】
- ・ローティーン、ハイティーン向けには、どういう企画ができるのだろうか。【第2回】
- ・小学校低学年向けの企画、テーマパーク風の企画、工作中心の企画の場合は、見ること（作品鑑賞）をどう取り入れるのか、気になる。【第2回】
- ・夏休みには、低年齢層向けの企画（ばれたん展）と、もう少し上の年齢層向けの企画を、隔年で開催しているが、その中間的な内容で毎年開催することはできないか。【第3回】
- ・低年齢層向けの企画でも、展示作品はしっかりとしたもの。鑑賞への導入方法を工夫することで解消できるのではないか。【第3回】
- ・入館者数にとらわれることなく、市民にとって美術館があること美術と触れることはいいことだと思わせるような、府中ならではの展覧会を行ってほしい。【第3回】

教育普及活動

- ・海外では、オンラインを使ったシステム、美術についての専門的知識を持ったボランティアなど、さまざまな作品解説の手法が導入されている。【第3回】
- ・作家とじかに接する体験は面白いし貴重。公開制作がそれにあたるが、他にも作家と話をするようなイベントがあれば面白い。オンラインでもできるのではない。【第3回】

- ・美術館の外側に向けて活動を広げていくことが重要ではないか。【第3回】
- ・教育普及活動の対象がどうしても子どもたちになりがちだが、高齢者、ケアサービス利用者など、多彩な層に向けた活動があるのではないか。【第3回】

学校連携

- ・学校教育では全教科にわたってタブレットの導入が進んでいるので、それらを活用していくことは将来的にも有効。【第3回】
- ・中学校では夏休みの課題として美術館を利用しているが、この期間の展覧会が低年齢層向けで満足感に欠ける。中学生向けに、一歩踏み込んだ学校連携があるとよい。【第3回】

地域連携

- ・ケヤキ並木でのイベントなどの場で美術や美術館に関わってもらえれば、それが美術館へ行こうということに、繋がるのではないか。【第1回】
- ・府中駅周辺など市内のイベントで美術館と連携して行くことがあってもいい。【第2回】
- ・ボランティア活動については、単なる作業ではなく、市民が主体的に参画でき充足感を得られる活動となることを願う。【第3回】
- ・事業を拡大していくためには、つまるところ人手が必要になっていく。美術館のスタッフだけで実施することは不可能なので、事業の企画から運営・管理まで含めて包括的にボランティアに依頼できるようになればいい。【第3回】

広報活動

- ・まだまだ美術館の企画を知らない方もいるので、PRをもっとやればいい。何か仕掛けをSNSとかでやれば、ヒットするのでは。【第2回】
- ・府中駅の美術館行バス停など交通拠点に、美術館の案内があるといい。【第2回】
- ・多くの場所に美術館のポスターが掲示してあれば、人々の関心も引く。【第2回】
- ・町内会の回覧板など市民の生活に密着した情報媒体を活用すれば、文化的な事業に関心の方々にアピールできる。【第3回】
- ・町内の広報版には、美術館のチラシが貼られていないことがある。地区によって差があるのではないか。【第3回】

設備・サービス

- ・今後は大規模改修で長期休館するかもしれないが、休館中も美術館の存在が忘れられないように、注意していただきたい。【第1回】
- ・収蔵庫、図書室、駐車場など、今後手狭になる設備は拡大していく必要がある。【第1回】
- ・「ぱれたん」など、美術館のオリジナルグッズをもっと展開してもよい。【第2回】
- ・市民ギャラリーでの小中学生の作品展示を見に来た子どもや親御さんが、美術館に興味

を持つようになれば、これも利用拡大に繋がっていく。【第1回】

- ・市民ギャラリーも、作家を巻き込むなど、作品発表にもっと気軽に使ってもらえる場所にしていきたい。【第1回】
- ・市民ギャラリーでの展覧会、出品内容などはアーカイヴ化しているのか？ぜひアーカイヴ化してもらいたい。【第2回】
- ・作品と市民が会える空間として、施設はもちろん接遇などの環境面も重要。【第3回】
- ・開館時間の延長や夜間開館は効果があるのか？ → 美術館の立地条件や開催中の企画内容による。夕陽をアピールポイントにしている美術館では、閉館時間を日没時間に合わせた事例もある。夜間開館は定着することが重要。人件費や光熱費など経費面の課題もある。【第2回】
- ・美術館のファン、美術館のサポーターを作ることが重要。【第2回】

オンライン活用

- ・オンラインを活用することで、障害のある方や不登校の方など、美術館に来られない方々にも活動が行える。これまでの美術館は「美術館に来る人」しか相手にしなかったという反省を踏まえた先に、次のステップがあるのではないか。【第3回】
- ・コロナ禍でオンラインによるサービスが整ってきた。一方、コロナ禍以降も実物に触れる良さは変わらない。オンラインとリアルの両方を充実していくことが重要。【第3回】
- ・美術館の展示の様子をオンラインで紹介出来たらよい。【第3回】
- ・ウェブ環境が整ってきており、それを活用する事業展開が提案されている。【第3回】

その他

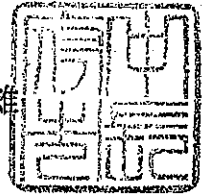
- ・都心の大規模美術館から地方都市の小規模美術館までさまざまあるが、府中にあった在り方を考えていきたい。【第1回】
- ・コロナ禍が落ち着いてきたなか、また市民に愛されたくさんの人が集まる場に戻っていったら、嬉しい。【第1回】
- ・美術館の鑑賞環境では、不特定多数の人が時間を選ばずに一つの場所に集まるが故の課題がある。自由にしゃべりながら鑑賞できる時間帯、低年齢層が来る時間帯など、区分することはできないか。【第3回】
- ・美術館に来る人、美術館に来られない人、興味が無く美術館に来ない人の三層が存在する。それらへの事業展開を考えていけば、利用者拡大に繋がるのではないか。【第3回】

写

6府文文第250号
令和6年11月22日

府中市美術館運営協議会
会長 橋本 善八 様

府中市長 高 野 律 雄



府中市文化芸術推進計画検討協議会委員の推薦について（依頼）

向寒の候 貴会におかれましてはますますご発展のこととお喜び申し上げます。
さて、このたび、次期府中市文化芸術推進計画を策定することに当たり、検討協議会を設置いたします。

つきましては、検討協議会の芸術文化関係団体の代表者として貴会の方を委員として選出いたしたく、ご多忙の折誠に恐縮ではございますが、次のとおりご推薦を賜りますようお願いいたします。

- 1 委 員 名 府中市文化芸術推進計画検討協議会委員
- 2 職 務 次期府中市文化芸術推進計画策定に向けて、必要な検討を行う。
- 3 任 期 令和6年12月から令和7年11月まで
- 4 推薦人数 1名
- 5 推薦期限 令和6年11月28日（木）
- 6 そ の 他
 - (1) 報酬は、1回の出席につき11,000円（交通費・源泉徴収税含む。）
 - (2) なるべく府中市在住の方のご推薦をお願いいたします。
 - (3) 協議会は市の附属機関となります。また、委員の皆様は非常勤特別職となります。
 - (4) 協議会は令和6年度中に3回、令和7年度中に5回を予定しております。

【担当】府中市文化スポーツ部文化生涯学習課

氏 名 中司

電 話 042-335-4467（直通）

E-mail bunsin01@city.fuchu.tokyo.jp